

LRQA独立保証声明書

パナソニックグループ サステナビリティデータブック 2024 に掲載される 2023 年度環境データに関する保証

この保証声明書は、契約に基づいてパナソニックホールディングス株式会社に対して作成されたものである。

保証業務の条件

LRQA リミテッド（以下、LRQA という）は、パナソニックホールディングス株式会社（以下、会社という）からの委嘱に基づき、パナソニックグループ サステナビリティデータブック 2024 に掲載される 2023 年度（2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）の会社の環境データ（以下、報告書という）に対して、検証人の専門的判断による重要性水準において、ISAE 3000（改訂版）及び温室効果ガス（GHG）排出量については ISO14064-3:2019 を用いて、限定的レベルの独立保証業務を実施した。

LRQA の保証業務は、会社とその国内外連結会社の運営及び活動¹に対して、以下の要求事項を対象とする。

- 会社の定める報告手順への適合性の検証
- 以下の指標に関するデータの正確性及び信頼性の評価^{2,3}
 - 事業活動における CO₂ 排出量(tCO₂e)
 - エネルギー起源 CO₂ 以外の温室効果ガス排出量 (tCO₂e)
 - スコープ 1 GHG 排出量（内訳を含む）(tCO₂e)
 - スコープ 2 GHG 排出量（内訳を含む）(tCO₂e)
 - 物流による CO₂ 排出量(tCO₂e)⁴
 - スコープ 3 カテゴリー 11 - 販売した製品の使用に伴う GHG 排出量(tCO₂e)
 - 事業活動における再生可能エネルギー使用量(MWh)⁵
 - 事業活動におけるエネルギー消費量(MWh)
 - 廃棄物・有価物の発生量(千トン)
 - 水使用量(m³)
 - 管理対象の化学物質排出・移動量（総量）(トン)⁶
 - CO₂ 排出実質ゼロ化(44 工場)⁷
 - 社会への CO₂ 削減貢献量 (tCO₂e)

LRQA の責任は、会社に対してのみ負うものとする。本声明書の脚注で説明されている通り、LRQA は会社以外へのいかなる義務または責任を放棄する。会社は報告書内の全てのデータ及び情報の収集、集計、分析、公表、及び報告書の基となるシステムの効果的な内部統制の維持に対して責任を有するものとする。報告書は会社によって承認されており、その責任は会社にある。

¹ 事業活動におけるエネルギー消費量、スコープ 1 GHG 排出量のうちエネルギー起源の CO₂ 及びスコープ 2 GHG 排出量は会社とその国内外連結会社のうち 222 生産拠点及び 75 非製造拠点を対象範囲とする。エネルギー起源 CO₂ 以外の温室効果ガス排出量、スコープ 1 GHG 排出量のうちエネルギー起源 CO₂ 以外の GHG 排出量、廃棄物・有価物の発生量、水使用量、管理対象の化学物質排出・移動量（総量）は会社とその国内外連結会社のうち 222 生産拠点を対象範囲とする。事業活動による CO₂ 排出量は、スコープ 1 GHG 排出量とスコープ 2 GHG 排出量の合計とする。

² サステナビリティデータブック 2024 において、★マークを付した環境データについて限定的保証業務を行った。

³ GHG の定量化には固有の不確かさが前提となる。

⁴ 日本国内の物流を対象とする。

⁵ 非製造事業所も含めたパナソニックグループ全体の実績とする。

⁶ データ収集・集計の体制が整っていない一部の会社を対象外としている。

⁷ CO₂ 排出実質ゼロ化(44 工場)は別添に示す。

LRQA の意見

LRQA の保証手続の結果、会社が全ての重要な点において、

- 自らの定める基準に従って報告書を作成していない
- 正確で信用できる環境データを開示していない

ことを示す事実は認められなかった。

この保証声明書で表明された検証意見は、限定的保証水準⁸、及び検証人の専門的判断に基づいて決定された。

保証手続

LRQA の保証業務は、ISAE3000 (改訂版)と GHG については ISO14064-3:2019 に従って実施された。保証業務の証拠収集プロセスの一環として、以下の事項が実施された。

- 報告書内に重大な誤り、記載の漏れ及び誤りが無いことを確認するための、会社のデータマネジメントシステムを審査した。LRQA は、内部検証を含め、データの取扱い及びシステムの有効性をレビューすることにより、これを行った。
- データの収集と報告書の作成に関わる主たる関係者へのインタビューを行った。
- サンプルング手法を用いて、集計されたデータの再計算と元データとの突合を行った。
- 2023 年度の環境データに関する記録および情報の検証を行った。
- パナソニックインダストリー株式会社 デバイスソリューション事業部宇治工場及び Panasonic Wanbao Appliances Compressor (Guangzhou) Co., Ltd. を訪問し、データの収集及び記録管理の実施状況の確認を行うと同時に、各種設備の現場確認を実施した。
- 実質的な CO₂ 排出量を達成するために、電力については、再生可能エネルギー契約または非化石証書の利用による完全再エネ利用し、及びその他のエネルギーについては、利用可能なカーボンクレジットを使用してカーボンオフセットすることにより、対象となる各拠点がカーボンニュートラル化を達成していることを確認した。⁹

観察事項

環境データ収集対象活動の抽出における完全性を確保するための、手順書への反映や拠点への周知が期待される。

基準、適格性及び独立性

LRQA は ISO14065 “温室効果ガス—認定又は他の承認形式で使用するための温室効果ガスに関する妥当性確認及び検証を行う機関に対する要求事項”、ISO17021-1 “適合性評価—マネジメントシステムの審査及び認証を行う機関に対する要求事項—第1部：要求事項” に適合する包括的なマネジメントシステムを導入し、維持している。これらは国際会計士倫理基準審議会による国際品質管理基準1と職業会計士の倫理規定における要求も満たすものである。

LRQA は、その資格、トレーニング及び経験に基づき、適切な資格を有する個人を選任することを保証する。

全ての検証及び認証結果は上級管理者によって内部でレビューされ、適用された手続が正確であり、透明であることを保証する。

LRQA は会社の ISO 9001、ISO 14001、IATF16949、AS9100 の認証機関である。これら認証業務は、LRQA が会社に対して行っている保証業務に関して、LRQA の独立性や公平性を損なうものではない。

⁸ 限定的保証業務の証拠収集は、合理的保証業務に比べて少ない範囲で行われ、各拠点を訪問して元データを確認するより集計されたデータに重点を置いている。従って、限定的保証業務で得られる保証水準は合理的保証業務が行われた場合に得られる保証に比べて実質的に低くなる。

⁹ 会社の GHG 排出量について、最終結果はカーボンオフセットによる GHG 排出量の相殺を行っている。LRQA は、オフセットクレジットが会社により取得され、適切に相殺されていることを確認したが、LRQA はこれらのオフセットクレジットの提供者に対していかなる手続きも行っておらず、オフセットクレジットが CO₂ 排出量の削減をもたらすかどうかに関して意見を表明していない。



署名

2024年7月21日

A handwritten signature in black ink, appearing to read 'Ichiro Ueno', written in a cursive style.

上野 一郎

LRQA 主任検証人

LRQA リミテッド

神奈川県横浜市西区みなとみらい 2-3-1 クイーンズタワーA 10F

LRQA reference: YKA00001141

LRQA, its affiliates and subsidiaries, and their respective officers, employees or agents are, individually and collectively, referred to in this clause as 'LRQA'. LRQA assumes no responsibility and shall not be liable to any person for any loss, damage or expense caused by reliance on the information or advice in this document or howsoever provided, unless that person has signed a contract with the relevant LRQA entity for the provision of this information or advice and in that case any responsibility or liability is exclusively on the terms and conditions set out in that contract.

The English version of this Assurance Statement is the only valid version. LRQA assumes no responsibility for versions translated into other languages.

This Assurance Statement is only valid when published with the Report to which it refers. It may only be reproduced in its entirety.

Copyright © LRQA, 2024.

CO2 排出実質ゼロ化 (44 工場)

パナソニック エコテクノロジーセンター (株) (PETEC)、パナソニック エナジー無錫 (有) (PECW)、パナソニック エナジー蘇州 (有) (PECSZ)、パナソニック マニュファクチャリング北京 (有) (PMFBJ)、パナソニック エナジータイ (株) (PECTH)、パナソニック ブラジル (有) (サンジョゼ、マナウス、エストレマ) (PANABRAS)、パナソニック セントロアメリカーナ (株) (PCA)、パナソニックセンター東京 (PC 東京)、パナソニック オートモーティブシステムズ (株) 松本地区 (PAS 松本)、パナソニック オートモーティブシステムズ (株) 敦賀地区 (PAS 敦賀)、パナソニック オートモーティブシステムズ (株) 白河地区 (PAS 白河)、パナソニック オートモーティブシステムズ (株) 横浜ビル (PAS 横浜ビル)、パナソニック エナジー (株) 洲本工場 (PEC 洲本)、パナソニック エナジー東浦 (株) (PEC 東浦)、パナソニック エナジー南淡 (株) (PEC 南淡)、パナソニック エレクトロニックデバイス 江門 (有) (PEDJM)、パナソニック デバイス天津 (有) (PIDTJ)、パナソニック デバイスマテリアル広州 (有) (PIDMGZ)、パナソニック デバイス SUNX 蘇州 (有) (PIDSXSZ)、パナソニック オートモーティブシステムズ大連 (有) (PASDL)、パナソニック AS 蘇州 (有) (PASSZ)、パナソニック オートモーティブシステムズアジアパシフィック (株) (PASAP)、パナソニック オートモーティブシステムズマレーシア (株) (PASMV)、パナソニック エナジー インド (株) (PECIN)、パナソニック オートモーティブシステムズモンテレイ メキシコ (株) (PASMT)、パナソニック オートモーティブシステムズメキシコ (株) (PASMV)、パナソニック オートモーティブシステムズレイノサメキシコ (株) (PASRY)、パナソニック エナジー メキシコ (株) (PEMX)、パナソニック オートモーティブシステムズチェコ (有) (PASCZ)、パナソニック インダストリー (株) 本宮 (PID 本宮)、パナソニック エナジー (株) 住之江工場 (PEC 住之江)、パナソニック エナジー (株) 徳島工場 (PEC 徳島)、パナソニック エナジー (株) 二色の浜工場 (PEC 二色の浜)、パナソニック モータ珠海 (有) (PMRZ)、パナソニック モータ杭州 (有) (PMRHZ)、パナソニック デバイス タイコー 深圳 (有) (PIDTASN)、パナソニック インダストリアルデバイス青島 (有) (PIDQD)、パナソニック マニュファクチャリング厦門 (有) (PMX-MR)、パナソニック デバイスマテリアル蘇州 (有) (PIDMSZ)、パナソニック デバイスマテリアル上海 (有) (PIDMSH)、パナソニック デバイス シンガポール (株) (PIDSG)、パナソニック カーボンインド (株) (PCIN)